

## 為替週間展望 = ドル円は 108 ~ 109 円台で一進一退の動きか

[ 2月3日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		1月27日 ~ 1月31日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.02	109.27(29)	108.58(30)	109.04	-0.24
ユーロ・ドル	1.1023	1.1039(30)	1.0992(29)	1.1023	-0.0002

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,205.18	-622.00	日本10年債利回り	0.063	-0.043
ダウ平均株価	28,859.44	-130.29	米10年債利回り	1.586	-0.098

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 3日 豪12月住宅建設許可件数  
中国1月財新製造業購買担当景気指数  
米1月ISM製造業景況指数、米12月建設支出
- 4日 豪中銀(RBA)政策金利  
ユーロ圏12月生産者物価指数  
米12月製造業受注
- 5日 NZ第4四半期雇用統計  
ユーロ圏12月小売売上高指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
米1月ADP雇用統計  
米12月貿易収支  
カナダ12月貿易収支  
米1月ISM非製造業景況指数
- 6日 豪12月貿易収支、豪12月小売売上高  
独12月製造業受注指数  
米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数
- 7日 日本12月勤労者世帯家計調査  
中国1月貿易収支  
日本12月景気動向指数速報値  
独12月貿易収支、独12月経常収支、独12月鉱工業生産指数  
米1月雇用統計  
カナダ1月雇用統計  
カナダ1月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの感染拡大懸念が市場の最大の注目材料となっている。感染拡大がどこまで広がるのか不透明な状況が続いており、関連する報道に振り回されながらもドル円は109円台を中心に上値の重い展開となりそうとした。

【新型コロナウイルスへの警戒感が引き続き重石に】

中国の湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスに関する報道で、金融市場は振り回されている。31日には中国での感染者数が9000名を超え、死者も200名を超えたと報じられた。重症急性呼吸器症候群(SARS)の感染者数をすでに上回っている。なお、日本国内でも感染者は確認されているものの、死者の発生は中国国内に限られている。

日経平均は28日まで大きく下げた後、29日には下げ渋りの動きを見せた。ただ、30日には再び大幅安、31日に反発するなど荒れた動きを見せている。ドル円は31日の米国市場で108円台半ばまで下落した後に109円台を回復している。極端な下げはないものの、新型コロナウイルス関連の報道や株式市場の動きを眺めて、上値の重い展開となっている。ユーロ円、ポンド円、豪ドル円などのクロス円も全般に上値を抑えられやすい動きとなっている。

28～29日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）では、政策金利は大方の予想通り、据え置きとなった。声明では米国の景気は緩やかに拡大しているとの見解を示した。パウエル議長の記者会見では、新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感を示した。これを受けて、NYダウは上げ幅を大きく縮小して、米国債利回りも低下した。

30日には世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスによる肺炎に関して国際的な公衆衛生上の緊急事態を宣言した。ただ、貿易や移動制限は推奨しないとしており、テドロスWHO事務局長も会見で、「脅威ではない、いまは事態を確認するときだ」と述べた。30日の米国株は売りが先行したものの、この報道を受けて上昇に転じた。

ドル円は108円台半ばから109円台前半でもみ合いとなっている。新型コロナウイルスの感染拡大がどこまで広がりを見せるのかが見通せないことから、戻しても上値を抑えられやすい流れとなっている。リスク警戒感から米国債が買われて、米10年物国債の利回りは1.60%を割り込み、30日に一時1.53%台まで低下した。その後は利回り低下も一服している。

引き続き市場の関心は新型コロナウイルスの感染拡大の影響となりそうだ。リスク回避の動きから円は買われやすいものの、ドルも買われやすくなっており、ドル円は狭いレンジでのみみ合いとなっている。今後、感染者数の拡大が見込まれており、ドル円は108～109円台で一進一退の動きが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、108.00～109.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、3日に米1月ISM製造業景況指数、米12月建設支出、4日に米12月製造業受注、5日に米MBA住宅ローン申請件数、米1月ADP雇用統計、米12月貿易収支、米1月ISM非製造業景況指数、6日に米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数、7日に日本12月勤労者世帯家計調査、日本12月景気動向指数速報値、米1月雇用統計などがある。

#### 【ユーロドルは軟調に推移か】

ユーロドルは軟調な流れが継続している。欧州中央銀行（ECB）による緩和策が継続するとの見方に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感からドル買いの動きとなっていることなどがユーロドルの上値を抑えている。28日には一時1.1000ドルを割り込む場面も見られた。

昨年11月に2度、1.1000ドルを割り込む場面も見られたが、その時は下げ渋りから上昇に転じた。ただ、今回の下げは新型コロナウイルスという特殊要因の影響であり、影響範囲が不透明なこともあり、現在の水準付近から上昇に転じるよりは、軟調に推移する可能性が高いとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0950～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3日に豪12月住宅建設許可件数、中国1月財新製造業購買担当景気指数、4日に豪中銀（RBA）政策金利、ユーロ圏12月生産者物価指数、5日にNZ第4四半期雇用統計、ユーロ圏12月小売売上高指数、カナダ12月貿易収支、6日に豪12月貿易収支、豪12月小売売上高、独12月製造業受注指数、7日に中国1月貿易収支、独12月貿易収支、独12月経常収支、独12月鉱工業生産指数、カナダ1月雇用統計、カナダ1月IVEY購買部協会指数などがある。

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。